

(様式2)

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570104057		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームうすい		
所在地	新潟県新潟市南区臼井1435-3		
自己評価作成日	平成23年7月28日	評価結果市町村受理日	平成21年10月9日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n-kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員で作った「人にやさしいグループホーム」を基本理念として、ご利用者一人ひとりの好み、考え、思いをよく知り、それぞれの願いを叶え、その人らしい人生を送っていただくことを方針として、ご利用者が今やりたいこと、今の気持ちを大切に個別ケアに取り組んでいます。

家庭的であたたかい環境づくり、ご利用者にとって、もう一つの家になれるよう、のんびりゆったり、ご自分のペースで生活していただくことを大切に支援しています。

地域との交流を大切に、日常的な関わりから地域行事への参加、出店など地域の中で生活していることを感じていただけるよう取り組んでいます。

日常的に、散歩やドライブ、買い物等で外出の機会を持っていただき、気候のよい時はウッドデッキに出て食事をしたり、お茶を飲んだりし、また、同区の他事業所との交流会を行い、ご利用者の生活の幅や人との交流を広げられるよう様々な取り組みを考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、信濃川沿いにかかる「うすい橋」のたもとにある。同法人の経営する通所介護、小規模多機能型居宅介護事業所、居宅介護支援事業所が隣接しており、お互いに連携・協力しつつ利用者同士の交流支援を盛んに行っている。

目の前には中学校・寺院があり、利用者や職員は散歩やゴミ捨て等で出会う学生や地域住民と自然に挨拶を交わし、地域の一員として毎日の生活を穏やかに過ごしている。近くには商店街もあって職員と一緒に買い物に出かけることもある。開設当時より地域との交流に積極的に取り組んでおり、地域行事には見るだけでなく参加することで行事を通して地域との交流を深めている。

ホーム内はリビングの広い窓や天窓からの採光で明るく、窓から見える木々から四季の移り変わりを感じることができる。リビングからは広々としたウッドデッキに自由に出入りができ、天気の良い日にはウッドデッキで食事やお茶を楽しんでいる。キッチンには自分の持てる力を発揮して職員と一緒に食事作りをしている利用者の姿があり、安全面に配慮しつつ行動を制限せず利用者の自由な暮らしを支援している様子が伺えた。

ホームの基本理念である「人にやさしいグループホーム」を目指して、いつも温かく寄り添うケアの実践に管理者はじめ職員が一丸となって日々取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[人にやさしいグループホーム]を基本理念とし、いつもあたたかく寄り添うケアを行うように常に理念に立ち返り、職員同志で確認しあいながら日々共有、実践している。	職員全員で作った基本理念を基に5つの具体的方針を掲げ日々の介護を行っている。日々の介護の中で基本理念である『人にやさしいグループホーム』を利用者等に伝えようと、職員一同理念を共有して実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、日常的な挨拶やゴミ捨て、回覧板などで交流させていただいている。行事への参加や出店を通じた交流を持たせていただいている。	地域の方を対象とした見学会を実施しグループホームを地域の方から知ってもらう機会を作っている。地域の祭り際には近くの中학생と一緒に蒸しパン販売を行いラッピングを担当する等、見学するだけでなく参加することで地域の一員として交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を定期定期発行し回覧板で回していただいたり、事業所の機能、活動を知っていただく機会を作っている。また、近隣の学校で講師として話をさせていただく機会をいただいている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の運営状況や課題や取り組みについて報告、アドバイスをいただく機会や情報交換の場になっている。	運営推進会議は定期的の実施している。ホームの運営状況やサービス評価等を報告してアドバイスをもらえるなどし、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から相談しやすい関係ができており、運営推進会議にも出席していただいていることから、運営の状況についても知っていただくことができています。	運営推進会議での定期的な報告、相談の他、困難ケースの場合等の相談が行われている。今年、初めて行われた見学会開催にあたっては、市町村等との協力もありスムーズに実施されている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、身体拘束がご利用者、職員に与える影響を理解し、日々のケアでも外に出たい方などの対応で引き止めたりせず、ご利用者の気持ちを大切にケアの実践を行っている。	研修会を行い身体拘束の具体的な行為について学んでいる他、月1回の勉強会を行い日頃のケアについて振り返る機会を持っている。何気ない声掛けが身体拘束となっていないかについても職員は日々確認しており、お互いに注意しあうこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を実施し、共通認識を持ち、かつ、職員同志で気をつけている。	新潟市が作成した虐待防止のマニュアルを利用して研修を行い、虐待につながるような不適切なケアがないかお互いに注意を払いながら利用者関わっている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、ご利用されているご利用者もおられた。今後も知識を得ながら、かつ活用できるように努めたい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご理解していただけるように説明をさせていただき、入居後もご不明な点や心配なことなど、いつでもなんでも言っていただけるようお伝えしている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に職員から積極的にご様子をお伝えしたり、電話、手紙、近況報告などで関わりを持たせていただく中で何でも言っていただける関係作り、雰囲気作りに努めている。ご家族からのご要望などは全職員で共有している。	日々の関わりの中で行動や表情から本人の思いを汲み取るよう努めており、家族からは訪問時や面会時に積極的に意見を聞き取っている。会議の際には、家族からの要望や本人の思いに添った支援を行うための検討や改善に向けた意見交換を行っている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、研修などで話し合いの機会を持つとともに、日常的なコミュニケーションを大切に提案や意見を共有している。	普段から職員が管理者に提案や意見を伝えられる関係ができています。管理者は職員の意見をよく聞き、月1回の職員会議と月1回の勉強会を利用して改善に向けた取り組みを行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事の分担が明確化されており、また法人の体制として、職員個々の目標管理シートや自己申告書で法人に対し意見を伝える機会がある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修室があり、新人研修から中堅職員、段階的な研修や職種別の研修、サービス種別の研修など各種研修を開催し、職員の育成、サービス向上など勉強できる機会を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームとの交流研修や同区の他法人のグループホームとの交流会、同区の事業所のネットワーク(みなふくねっと)、同区のケアマネ交流会を通じて横のつながり作りを行なっている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接やご家族からの情報を参考に、ご本人の不安や要望、希望などを汲み取れるようにたくさん話をさせていただき、関係作りをさせていただいている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接の段階から心配なことがあったらいつでも連絡していただきたいことをお伝えし、ご家族からの話をよく伺い、不安の軽減が図れるよう関係作りを努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ケアマネ、事業所等とグループホームのサービスの必要性について検討させていただいている。またニーズに合ったサービスの提案もさせていただいている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、買い物、野菜選びなど家事を手伝っていただいたり、方言や言葉などを教えていただいたり、協力し合い、助け合いながら共に生活している。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話で様子をお伝えする機会を作っている。面会時にはゆったりと過ごしていただけるような配慮をさせていただいたり、一緒にいることを支援できるように努めている。	本人と家族の絆を大切に考え、家族に便箋をプレゼントして本人と手紙のやり取りをしてもらえるよう取り組んでいる。また、毎月家族へ本人の様子がわかる「うすい便り」を発送したり、手紙や電話・メールなどで本人の様子を随時報告して情報を共有している。受診の付添いなど家族の協力が必要な場面では出来る限りの協力をお願いしている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に会いに行ったり、来ていただいたり、ご利用者の地域の行事に参加できるように支援している。墓参りに出かけたり、自宅を見に行ったりなど、日常的に行なっている。	今までの生活について本人・家族等に聞き取りを行い、入居前からの馴染みの関係が途絶えないように支援している。馴染みの美容院に行ったり、隣接するデイサービスを訪問し友達との交流を楽しむこともある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	ご利用者同士の関係性にも配慮しながら、 それぞれのご利用者の過ごし方、過ごしや すさに配慮、工夫を行い、交流が持てるよ うに間に入ったり会話のきっかけ作りを行 い支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に何かあれば、いつでも連絡して いただけるようにお伝えしている。また、写 真を送らせていただいたり、ご様子を伺っ たり、関係を大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	食べたい物、外食、外出、買い物、過ごし 方、入浴時間など生活の中の一つひとつ を確認し希望を伺い希望に沿うように対応 している。	言葉では十分に意思表示できない場合でも、表情 や反応から本人の思いを汲み取り、自己決定でき るような声かけを行っている。アセスメントシートを 利用して職員で情報を共有し、本人の思いの把握 に努めている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	事前面接の情報やアセスメントを通じて情 報収集を行い、職員で情報共有しながら 支援している。お一人おひとりの生活習慣 を把握し、大切に支援している。	入居前には2人の職員が自宅等に訪問して事前面 接を行い、本人・家族から今までの生活等につ いて聞き取りを行うとともに、本人の生活環境等の把 握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態把握、様子を把 握し、職員間で情報共有している。一人ひ とりのペースや生活リズムの把握に努め、 アセスメント、ケアプランにつなげている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご家族からも情報をいただき、職員間では 意見交換、情報共有が活発、円滑に行な われ、モニタリング、カンファレンスは定 期、随時実施し、ケアプランにつなげて いる。	アセスメントシートを活用して本人の思いを汲み取 り、その人らしい暮らしの継続に向けた介護計画を 作成している。定期的にモニタリングを行って本 人・家族の状況や意向を尊重した見直しを行い、 現状に即した計画作成に努めている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録、気づきシートを使用し、職員の 気づきの共有を行ない、ケアプランに活か している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気づきシートやアセスメント、カンファレンスで情報共有し、希望、要望に対応できるように、常に柔軟に業務を変更、工夫し、その都度対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会などの地域行事や民生委員さん主催のここにこ昼食会、ボランティア団体との関わり、中学校との交流などを通じて生活の幅が広がるようお手伝いさせていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望にそって主治医を決めていただいている。また、状態に応じた医療機関の受診支援をしている。	本人及び家族の希望により、かかりつけ医を決めている。状況によっては、専門医への受診に繋いだり、看取りを希望する場合は対応可能な医師との連携を行っている。受診同行は家族に依頼しているが対応が困難な場合は職員が付き添って主治医、家族との橋渡しを行っており、透析治療介助の対応も行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制の看護師に定期的な健康チェックと変化があった際の医療的な観察、受診の判断など必要な対応をしている。常に体調管理と表情等の観察も含め状態を共有している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談室と連絡を取り合い、状態把握や退院時期などの相談、早期退院の依頼などをさせていただき連携を図っている。同区の在宅医療連携協議会へ参加させていただき、協働、連携をさせていただいている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	関係ができてくる中で、選択肢をお示しながら、ご要望をお聞きしている。状態に合わせて関係者と共に話し合いを行い、対応している。	医療機関との関係は良好であり、終末期をホームで迎えたいと本人・家族が希望した場合は、主治医との連携を図りながら状況に応じた対応が行える体制ができている。これまでもホームでの看取りを行った例があり、職員間でも終末期の支援に向けた意思の統一が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを確認するとともに、研修を実施し、日常的には看護師からアドバイスをもらいながら対応している。救急法は年1回は全職員が受講できるように計画している。	事故やケガ等の緊急時は、医療的な対応や専門的対応について法人内の看護職からアドバイスを得たり対応してもらえる体制が整っている。	法人内の看護師からアドバイスもらえる体制はあるが、全職員がいざという時に不安なく初期対応できるよう備えることが望まれる。実際に起こり得る場面を想定した応急手当などの訓練を定期的に行い、職員の実践力の向上を図ることを期待したい。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施する他、夜間想定訓練、消防署による防災研修を実施している。ご家族へは避難場所をお伝えし、地域の防災訓練に参加させていただき、連携、協力ができるように努めている。	ホームで定期的に避難訓練を行うほか、地域の防災訓練にも参加して協力体制づくりに努めている。隣接するデイサービス等との協力体制もあり、平成23年7月の集中豪雨による災害時には連携して対応した。	防災委員会で水害を加えたマニュアルの作成が行われている。水害の教訓を生かし、更なる内容の充実に期待したい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが常に注意し、気をつけている。法人の倫理綱領の研修を実施し再確認する機会も設けている。お一人お一人の状態に合わせた話し方、伝え方も心がけながら支援している。	本人に寄り添い関わることで、その時々の方の気持ちを尊重し、一人ひとりのペースに合わせた援助、声かけを行っている。馴れ合いの中での会話が本人の尊厳やプライバシーを損ねていないかを職員同士で注意しあっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に心掛けて支援している。思いや、希望、要望を伝えやすいような雰囲気づくりや働きかけを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望、要望に添えるようにその都度、業務を柔軟に変更し工夫を行っている。ご利用者を第一にしたケアを行っているが、希望に添えない時は別の日時に対応できるようにご利用者と相談して対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選んでいただいたり、買い物、服選びのお手伝い、化粧のお手伝いなど、その都度対応させていただいている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をメニューに取り入れたり、調理の下ごしらえやテーブル拭き、おしぼり配り、下膳など出来ることを探して手伝っていただいている。食べ物の好みにも配慮している。	調理への参加はその時々で本人ができることを行ってもらっている。参加できない方にも、食堂で料理の話をしたり、野菜を切る音や匂いを感じてもらい、食への楽しみにつなげている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の確認チェックをさせていただき、水分、禁食等の制限のある方にも配慮し対応している。また、体調や疾病等により、その時々で個別に対応している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後にお誘いして、お一人おひとりに必要な言葉かけや介助をさせていただいている。難しい方も職員間で対応を検討、工夫している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のパターンを把握し、お誘いするタイミングやパットの使用時間、使用方法などを検討し、なるべくトイレで排泄していただけるように、排泄の自立に向けた支援をしている。	可能な限りトイレで排泄ができるよう、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の様子を察知して自尊心に配慮したトイレ誘導を行っている。本人の希望で夜間のみポータブルトイレを使用したり、また、トイレも本人に合わせて座面の高さを選べるなど、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヤクルト、バナナ、冷たい牛乳、腹部のマッサージなど食べ物の工夫、水分をお勧めしたり、トイレに長めに座っていただくなど工夫をしている。それでも便秘がある方は主治医と相談しながら便秘薬を排便のパターンを把握しながらさせていただいている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴可能になっている。可能な限り希望に添って入浴していただいている。入浴に拒否がある方は言葉かけを行いながら、入浴の確認表を見ながらお誘いしている。	長湯が好きな人、ひとりでゆっくり入りたい人などには職員はさりげなく見守りを行う等、利用者がくつろいだ気分で安全に入浴できるように環境や職員の対応を検討している。入浴を嫌がる方へは無理強いすることなく、タイミングを見計らって声かけを工夫する等の支援を行っている。脱衣場は床暖房であり、また、浴槽も深く入りにくかったものを交換し、安全・快適に入浴できるよう改善した。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズム、就寝時間、就寝前の習慣、物音等への反応の習慣などを把握し、ペースを崩さないように配慮し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	情報共有している。様子観察や健康チェックを毎日行い、必要な支援に繋がられるよう努めている。薬の変更時には、主治医や薬剤師へ相談している。変更時の状態観察は特に注意をして行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの楽しみごとや好み(散歩、ドライブ、買い物等)ができるように気分転換のお手伝いができるように支援している。また出来ることを探して、職員の中の少しいの手助けがあればできることなども探している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望、要望に添ってその都度、対応している。楽しみや張り合いができるように支援している。また、ご家族と一緒に買い物や外食へ出かけた時、美容室に行かれるご利用者もおられる。	美容院へ行ったり、隣接のデイサービスへ友人に会いに出かけるなど、本人の意向を尊重して随時外出の支援を行っている。また、季節ごとの地域行事にも参加して地域の方と交流している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をご自分で管理されている方はご家族と相談の上、手元に持っていていただいている。管理が難しい方は預かり金としてグループホームで管理させていただき、必要なものや欲しいものを購入する際に使わせていただいている。支払いをご利用者にしていただくこともある。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に添って対応している。手紙の代筆や電話などの対応や代行などご家族とのやりとりの支援をしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じながら生活していただけるように季節感のあるしつらえを行い、天窓や居間の窓から季節や天気が分かるような配慮を行なっている。気持ちよく過ごしていただけるよう環境づくりを日々工夫をしながら取り組んでいる。	ホーム内は清掃が行き届き、清潔感がある。広い窓と天窓からの採光で室内は明るく、窓から見える風景から季節を感じることができる。利用者はリビングから出入りできる広いウッドデッキで、天気の良い日は食事やお茶を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には、食卓のテーブル、畳のスペース、ソファで過ごしていただくスペースなど、家具を配置し、思い思いにくつろいでいただけるよう工夫を行っている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談しながら、使い慣れたもの、なじみのあるものを持ち込んでいただき、安心して過ごせるように、その都度対応している。	居室には、本人が今まで使っていた道具を持ち込んでもらい、落ち着いて過ごすことができる環境作りに努めている。仏壇を持参し毎朝のお参りの習慣を続けている方もおられる。また、写真やのれんを飾り、温かみを感じられるよう工夫している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計になっており、手すりを設置することでご自分で好きな場所へ移動でき、必要時、見守り、介助を行い、安全に過ごせるように対応している。トイレの場所が分かるように目印をつけたり、家具を持ち込んでいただくことでご自分で衣類の整理ができるようになられたり、日々、自立に向けた検討や工夫を重ねている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		